施策評価表シート1

平成　28　年度

総合計画体系	分野	4	第 4 章	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	施策統括課	環境政策課
	施策No.	21	施　策　名	暮らしに身近な生活環境の向上	課　長　名（施策統括責任者）	百崎　芳子
	関係課		環境政策課、環境保全課、衛生センター、建築指導課、上下水道局			

1. 施策の目標

めざす姿（成果目標）	市民一人ひとりが、生活環境の向上に取り組み、快適な生活を営んでいる。
取組方針	大気汚染や水質汚濁、騒音・振動等の公害対策、ペットの飼育マナーや空き家等の適正管理など、生活に身近な環境問題について、適切な観測、相談・指導体制を充実します。また、上下水道については、取水から排水までの一貫した水の管理により、良質な水道水の供給と適切な下水の処理を効果的かつ合理的に推進します。

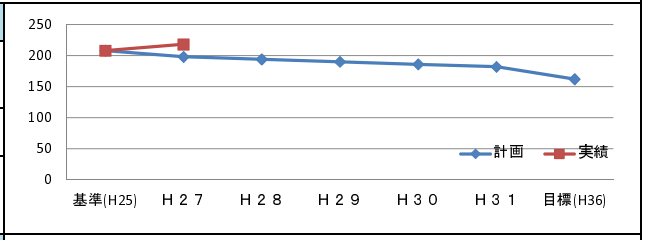
2. 施策の意図と成果指標

対象（誰、何を対象としているのか）＊人や自然資源等	市民、事業者
意図（この施策によって対象をどう変えるのか）	市民及び事業者が身近な環境問題に関心を持ち、自ら生活環境の保全に取り組んでいる。

成果指標 A

成果指標 A	単位
公害苦情（騒音・振動・悪臭等）件数	件

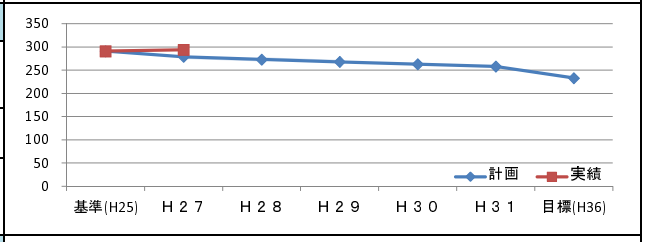
H25 基準	H27 計画	H27 実績	H28 計画	H28 実績	H29 計画	H29 実績	H30 計画	H30 実績	H31 計画	H31 実績	H36 目標
208	198	218	194		190		186		182		162



成果指標 B

成果指標 B	単位
生活環境苦情件数	件

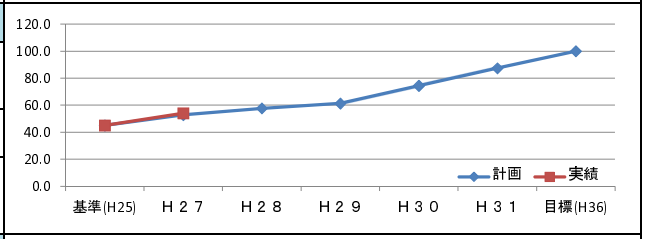
H25 基準	H27 計画	H27 実績	H28 計画	H28 実績	H29 計画	H29 実績	H30 計画	H30 実績	H31 計画	H31 実績	H36 目標
291	279	294	273		268		263		258		233



成果指標 C

成果指標 C	単位
鉛給水管更新率	%

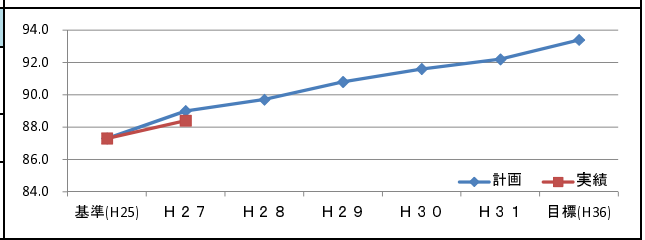
H25 基準	H27 計画	H27 実績	H28 計画	H28 実績	H29 計画	H29 実績	H30 計画	H30 実績	H31 計画	H31 実績	H36 目標
45.0	52.8	54.1	57.7		61.3		74.4		87.4		100



成果指標 D

成果指標 D	単位
下水道接続率	%

H25 基準	H27 計画	H27 実績	H28 計画	H28 実績	H29 計画	H29 実績	H30 計画	H30 実績	H31 計画	H31 実績	H36 目標
87.3	89.0	88.4	89.7		90.8		91.6		92.2		93.4



成果指標 E

成果指標 E	単位

H25 基準	H27 計画	H27 実績	H28 計画	H28 実績	H29 計画	H29 実績	H30 計画	H30 実績	H31 計画	H31 実績	H36 目標

施策評価表シート2

3. 施策の前年度成果結果の振返り

単年度目標の達成度	B. 概ね達成	左記評価の理由	成果指標の計画に対する実績値は概ね達成している。
必要性(市民・社会ニーズ)	A. 増加している	左記評価の理由	環境に対する市民、事業者の関心は依然として高く、本施策の必要性も高い。

4. 市民意向調査結果及び住民意見等

市民意向調査の結果			
施策の重要度		施策の満足度	
重要である	32.9%	満足している	3.8%
ある程度重要である	49.9%	どちらかといえば満足	51.0%
あまり重要ではない	9.7%	どちらかといえば不満	27.5%
重要ではない	1.7%	不満である	6.1%
28/36位		15/36位	

施策タイプ別	
タイプⅠ：優先して改善を要する施策	タイプⅡ：現状の水準を維持する施策
施策の重要度が高いが、満足度が低いもの	施策の重要度が高く、満足度も高いもの
タイプⅢ：検討を要する施策	**タイプⅣ：改善の必要性が低い施策**
施策の重要度が低く、満足度も低いもの	**施策の重要度が低いが、満足度が高いもの**

寄せられる意見や要望・その対応
身近な生活環境に対する市民の関心が高く、犬や猫のペット問題、カラス等野生生物に関する問題、騒音振動や野焼きに対する苦情、空き家空き地の適正管理に関する苦情相談が多い状況である。また、議会からは、カラス対策や空き地空き家の適正管理に対し、特に重要な課題として取り組みを進めるよう要望されている。 市民からの苦情相談については、迅速に現場を確認した上で適切に対応するとともに、生活環境に配慮する地域社会となるよう啓発事業を推進する。 また、空家対策室を設置して空家問題の改善を図り、カラス対策については、個体数調整をさらに強化する。 上下水道においては、これから施設の耐震化、老朽管の更新のコストが増大していく中、効率的な事業運営による料金・使用料の適正化が求められている。これから中長期的な計画の中で、安全で安定的な上下水道事業の継続のため適正な料金等について研究していく。

5. 施策の課題

〇生活に密着した環境問題の改善
・身近な生活環境に関する市民等からの要望が多くなっており、住民の安心安全のためには迅速な現場確認と問題解決のための対応が求められている。全般的にペットの飼い主のマナーは向上しているが、犬のフンの持ち帰りや放し飼いの禁止、みだりな野良猫への餌やりの自粛について理解しない市民がいるため、依然として苦情が寄せられている。
・カラスの個体数調整のため平成27年度は911羽を捕獲したが、市民や議会からはさらに固体数調整を進めるよう求められている。
〇公害（騒音・振動・悪臭等）の防止
・公害に関する苦情・相談が多数寄せられており、身近な生活環境を保全するため迅速な対応が求められる。また、公害の未然防止のため事業所等への立ち入り調査を引き続き実施し、公害発生の要因を減らすようにしていく。
〇水道水の安定供給
・安全でおいしい水道水を安定的に供給するために、鉛給水管の更新について、H32年度までに完了を目指すが、最終年度が近づくにつれ件数が増大するため、更新計画について検討が必要である。
〇下水の適切な処理
・適正な処理方式による下水処理を目指すが、公共下水道エリアの世帯でも、まだまだ個人で設置した浄化槽を利用している世帯も残っている。その中には、空き家、高齢者の一人暮らし世帯の問題、また、接続にかかる費用などの課題がある。
〇し尿の適切な処理
・し尿収集量は減少傾向にあるものの、浄化槽汚泥収集量は現状維持であり、今後も適正に処理していく必要があるが、施設の老朽化や処理方法を見直しコスト縮減のための設備更新等の課題がある。
〇空き地・空き家の適正管理
・空き地空き家の管理に関する苦情が増加傾向にあり、空き地空き家の所有者や相続人に対して改善指導を行っても解決できないものがある。今後も空き地空き家は増加傾向にある為、危険な状態にならない様所有者等の適正管理等に関する意識を高める必要がある。

6. 課題解決のための今後の取り組み

〇生活に密着した環境問題の改善
・カラスのわなを増設して個体数調整を強化するとともに、生息数調査を継続して効果を検証する。
・狂犬病予防集合注射に際してチラシを配布するなど啓発事業を推進する。
〇公害の防止
・事業所への立ち入り調査を継続する。
〇水道水の安定供給
・鉛給水管更新のために、HP、出前講座などで市民への周知度の向上を図り、より円滑に更新ができるよう取り組む。
〇下水の適切な処理
・下水道接続率の低い地域、供用開始後期間が短い地域等地域を絞込み市民に働きかけることにより、効率的に下水道接続率の向上を図る。
〇し尿等の適切な処理
・適切な維持管理による設備の効率的な運転を行うとともに、衛生センターを最適な処理システムで運営する方法と他の処理施設も含めた処理場のあり方を検討する。
〇空き地・空き家の適正管理
・所有者等に対しては空き地空き家の改善指導を行う際に、法や条例の制度内容の周知を図る。また、空き地空き家の適正管理の重要性についてHP、出前講座などで市民への周知度の向上を図る。